

ともだちは
海のおい

こんな本も読んでみましょう

選者：児童文学者 百々 佑利子

作：くどうなおこと
のはらみんな

「のはらうた」

「ともだちは海のおい」の詩(し)がすきになった人にぴったり

うきうきするリズムと、あったかいきもちがあふれている詩集(ししゅう)です。くどうなおことのはらのみんなが、「てんてんのうた」をうたいます。

「てんてんてん なんじゃらほい」。この、まほうのようなうたを、よみあわせしてみましょう。そのほかにも、みんなのむねにひびいて、よいともだちになれるうたばかりです。

作：工藤 直子

「てつがくのライオン」

ライオンとかたつむりも、ともだちになれる？

ともだちといっても、「にたものどうし」とはかぎりません。大きなライオンは、小さなともだちの、かたつむりにいわれて、「とても美しく、とてもりっぱなてつがく」になります。「てつがく」がなになのか、それはどうでもいいこと。ライオンのすなおな心、かたつむりのおもいやりのふかさ、そんなふたりのところをむすびつける「てつがく」の、ふしぎでユーモラスなものがたりなのですから。

作：ジェルミ
・エンジェル

「海にかえった4頭のライオン」

クジラがいなくなったら、クジラのおはなしをよんでもたのしくない！

ニュージーランドで、ほんとうにあったおはなしです。はまべにうち上げられたクジラを、町の人たちが、そう出でたすけました。ひぶがかわかないように水をかけ、やさしく話しかけたりうたをうたったりしました。そして「みちしお」をまって、なみにのせて、うみへとかえしてやりました。クジラと人びとの、ころあたたまるこうりゅうのおはなしです。

作：ジョン・
プレイヤー

「おおきなふかいくらやみ」

しょうねんチヌーは、おひさまにあえる日をまっていた？

「たいようが2か月のぼらなかつたら」って、そうぞうができますか？北きよくけんの冬の極夜(きよくや)は、くらくてたいくつなまい日がつづきます。あるあさ、パパとママが、うみへいこうとチヌーにいます。シロクマもオオカミもセイウチも、うみへいそぎます。じっとまっていると、こおったうみのむこうから、おひさまが出てきました。「ヤッホー」とチヌーがさけぶ気もちがわかります。